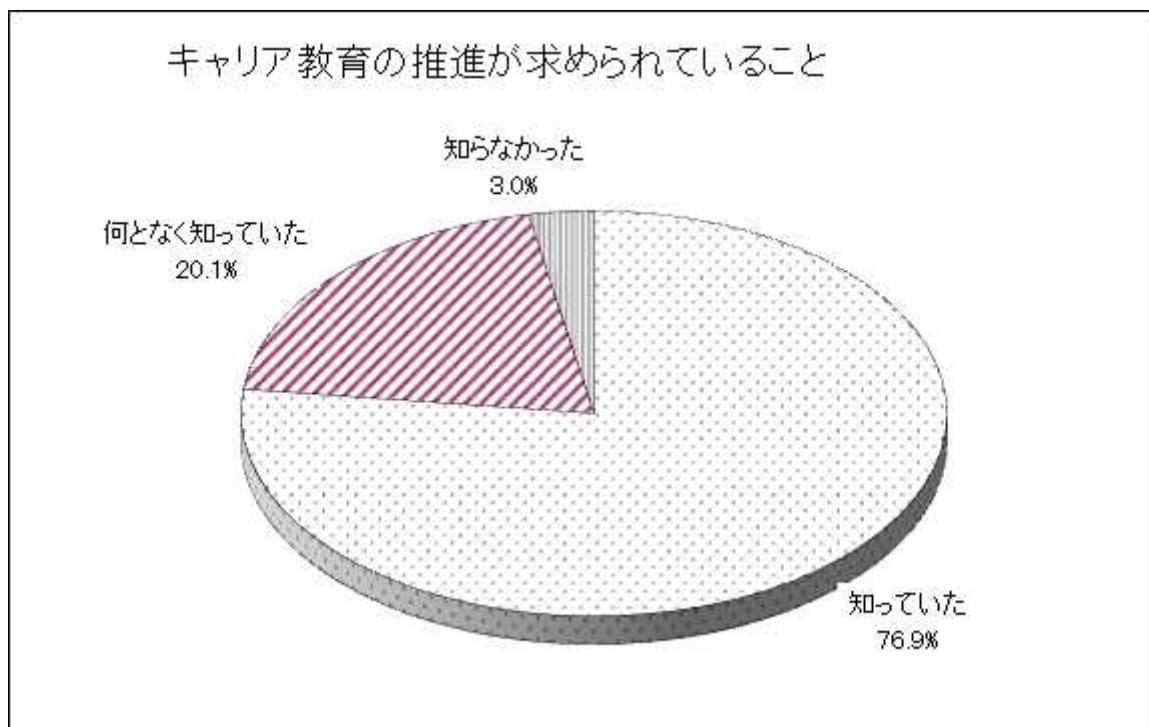


「小学校・学級担任調査」結果

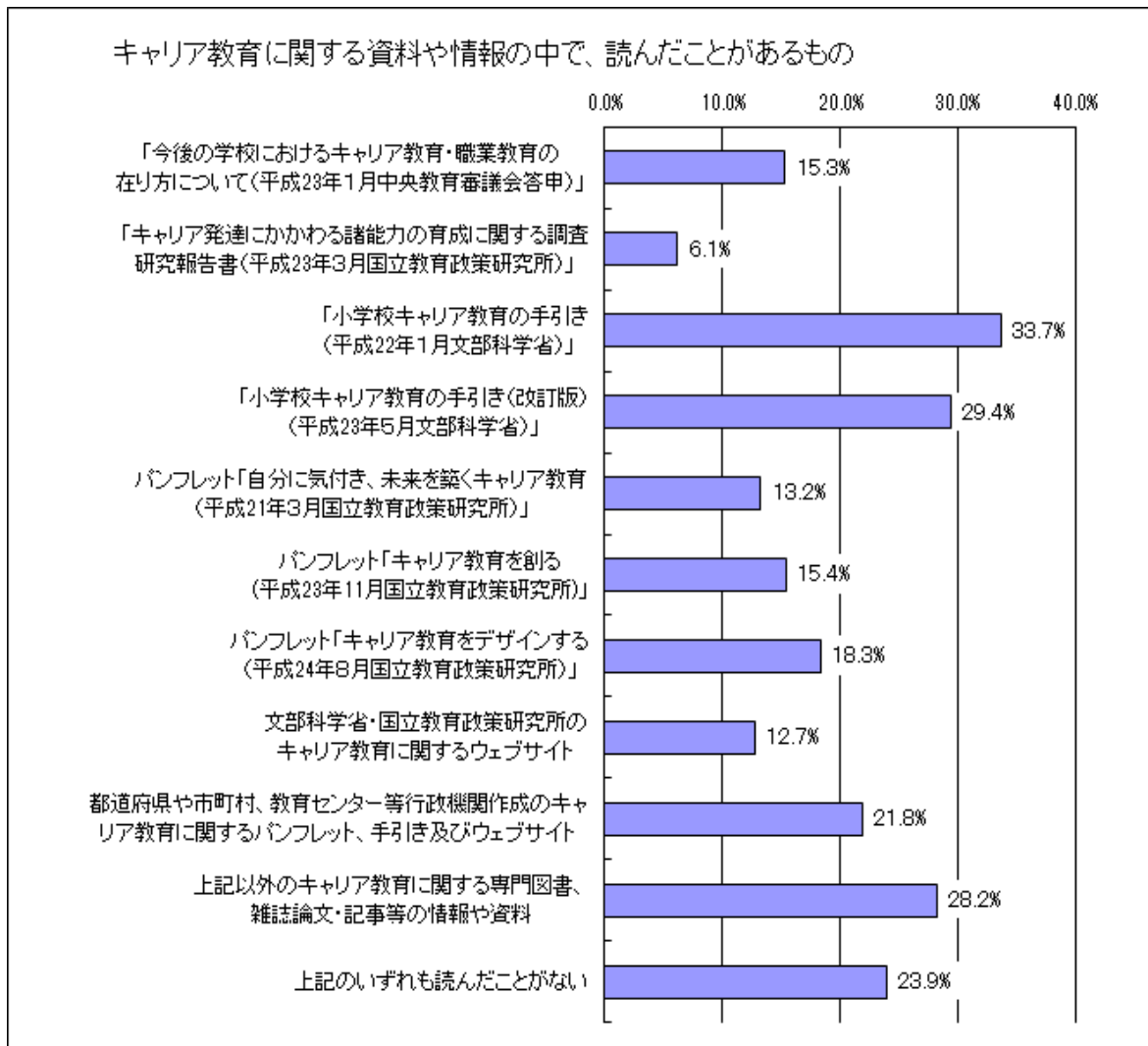
問1 キャリア教育に関して、以下の設問にお答えください。

- (1) キャリア教育の推進が求められていることについて御存じでしたか。当てはまるものを選んでください。



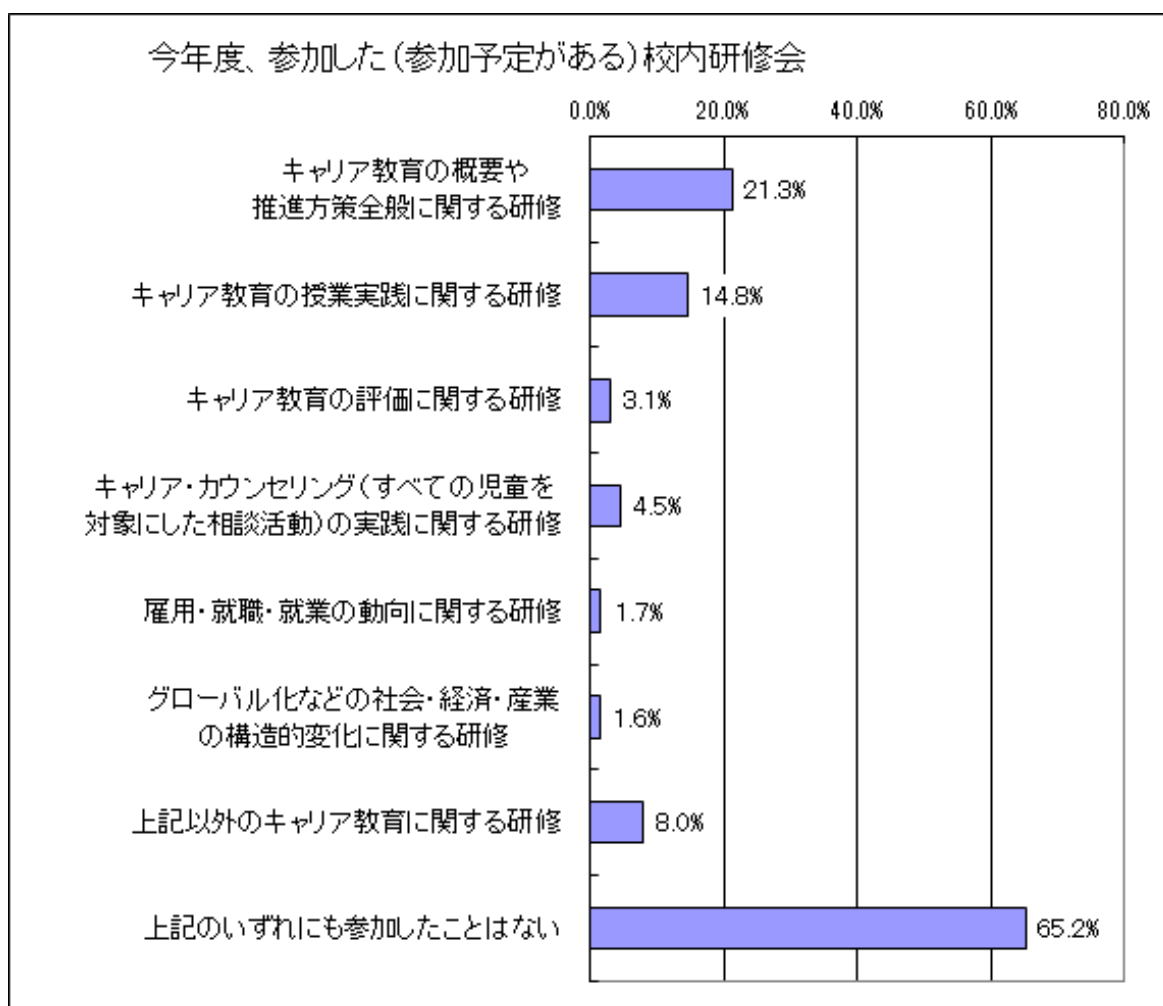
「知っていた」が 76.9%を占め、「何となく知っていた」の 20.1%を合わせると 97.0%が知っており、キャリア教育の推進が求められていることについては、周知されているといえる。

(2) 以下のキャリア教育に関する資料や情報の中で、読んだことがあるものを全て選んでください。



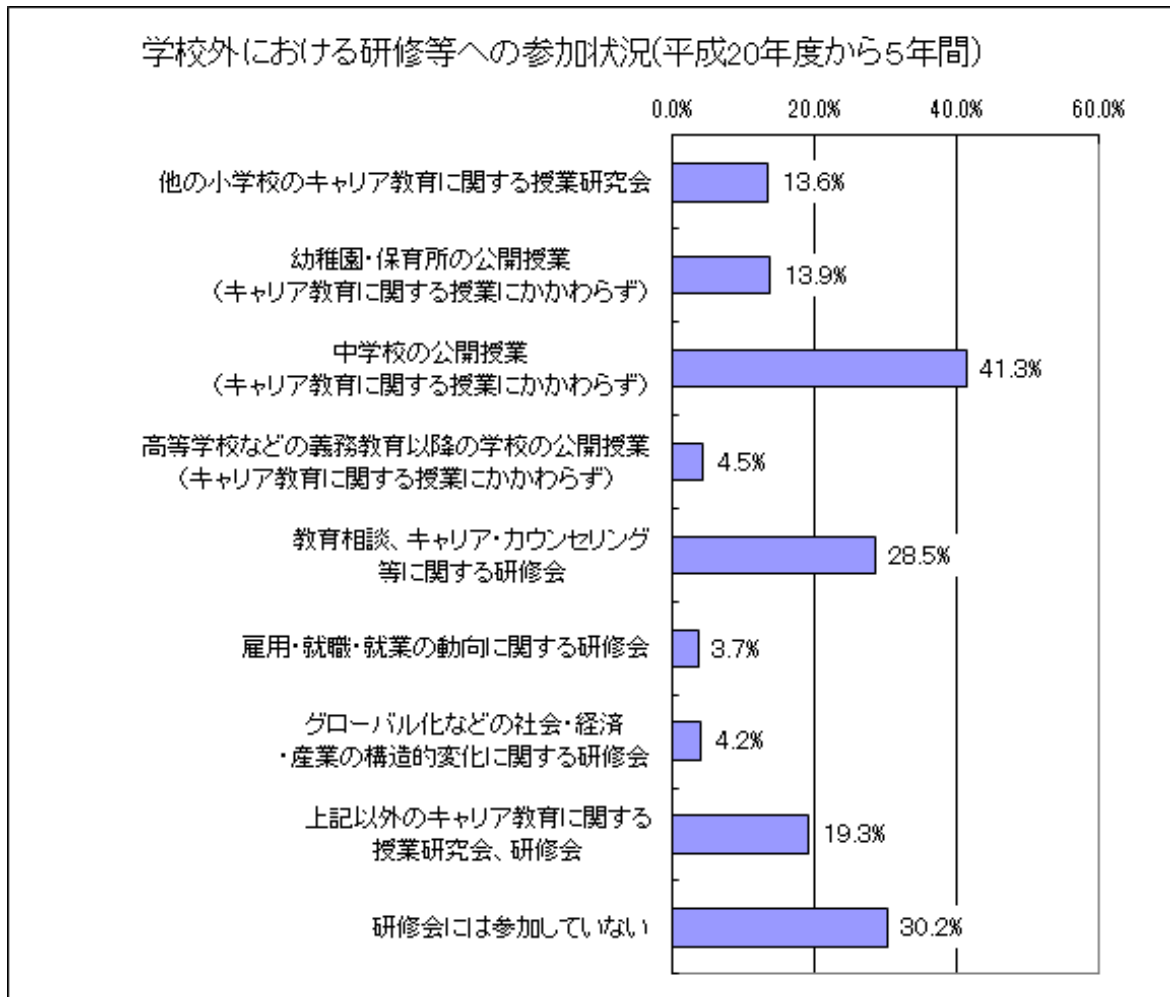
「小学校キャリア教育の手引き（平成 22 年 1 月文部科学省）」が 33.7%で最も活用されており、次に「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）（平成 23 年 5 月文部科学省）」が 29.4%となっている。また、「上記以外のキャリア教育に関する専門図書、雑誌論文・記事等の情報や資料」が 28.2%でこれらに次いでおり、国の機関以外が作成した情報や資料もある程度活用されている。一方、「パンフレット『自分に気付き、未来を築くキャリア教育（平成 21 年 3 月国立教育政策研究所）』」13.2%、「文部科学省・国立教育政策研究所のキャリア教育に関するウェブサイト」12.7%、「キャリア発達に関わる諸能力の育成に関する調査研究報告書（平成 23 年 3 月国立教育政策研究所）」6.1%などは目に触れにくい情報や資料であると言える。また、「上記のいずれも読んだことがない」も 23.9%を占めており、ほぼ 4 人に 1 人は、資料や情報を目にしたことがないことになる。

(3) 今年度、あなたが参加した（参加予定がある）校内研修会を全て選んでください。



「上記のいずれにも参加したことはない」が 65.2%で過半数を占めている。参加した校内研修としては、「キャリア教育の概要や推進方策全般に関する研修」が 21.3%で最も高く、「キャリア教育の授業実践に関する研修」が 14.8%でこれに次いでいる。一方、「キャリア教育の評価に関する研究」3.1%、「雇用・就職・就業の動向に関する研修」1.7%、「グローバル化などの社会・経済・産業の構造的変化に関する研修」1.6%などは、参加が少ない校内研修である。

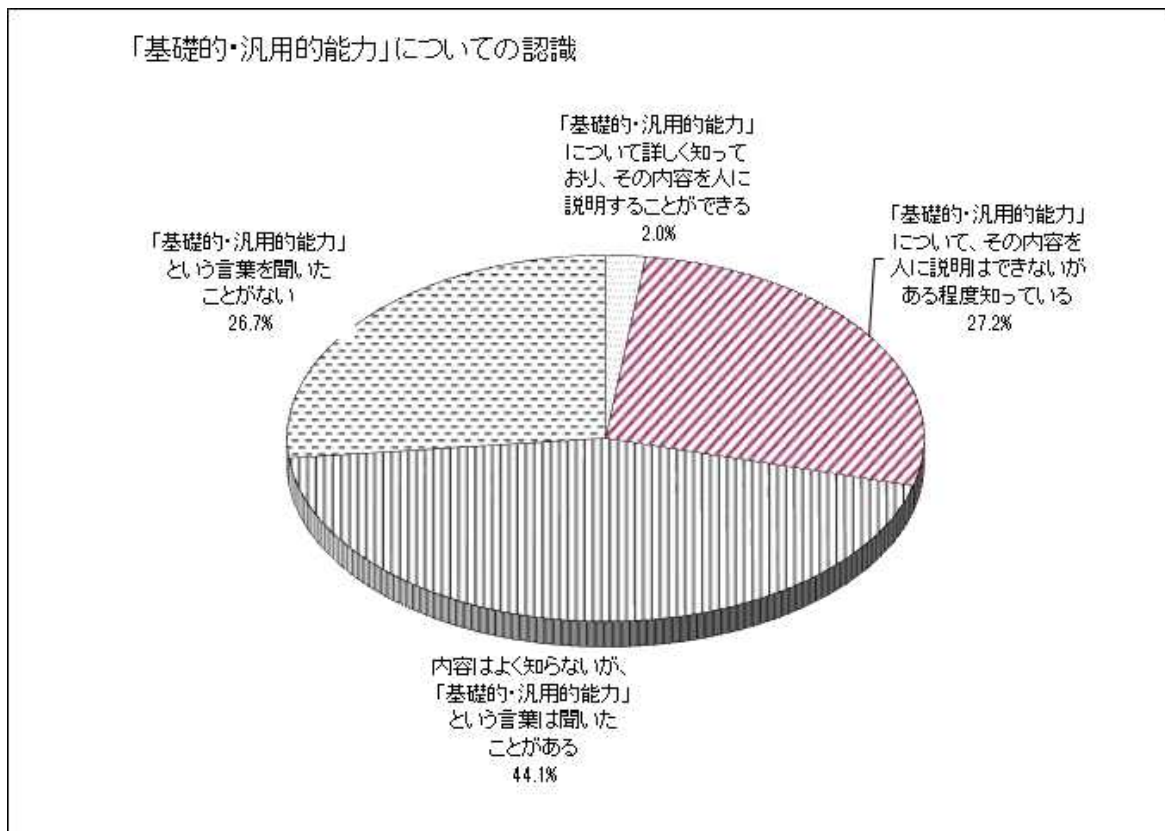
(4) 学校外における研修等への参加状況について、平成20年度から平成24年度までの5年間で、あなたが参加した研修（個人で参加した研修も含む）を全て選んでください。



校外研修については、「中学校の公開授業（キャリア教育に関する授業に関わらず）」が41.3%で最も高く、小中連携の推進がうかがえるが、「研修会には参加していない」が30.2%で次に高い。「教育相談、キャリア・カウンセリング等に関する研修会」が28.5%でこれらに次いでいる。一方、ほかの項目はいずれも20.0%未満であるが、校内研修より校外研修の方が参加率はやや高い。なかでも参加が少ない校外研修は、「高等学校などの義務教育以降の学校の公開授業（キャリア教育に関する授業に関わらず）」4.5%、「グローバル化などの社会・経済・産業の構造的変化に関する研究会」4.2%、「雇用・就職・就業の動向に関する研修会」3.7%などである。

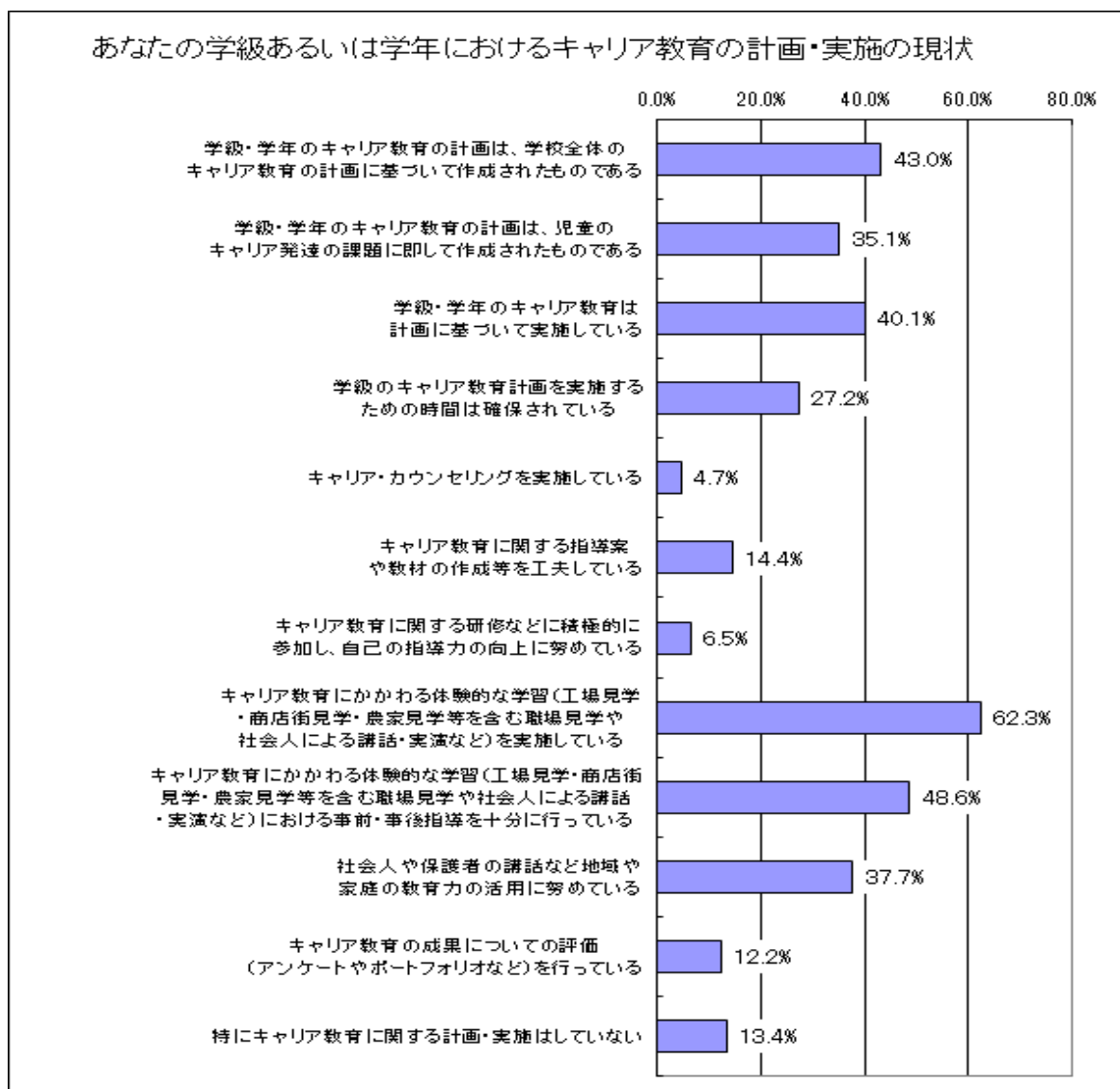
問2 「基礎的・汎用的能力」についてお尋ねします。

この「基礎的・汎用的能力」について御存じでしたか。当てはまるものを一つ選んでください。



「内容はよく知らないが、『基礎的・汎用的能力』という言葉は聞いたことがある」が44.1%で最も高く、「『基礎的・汎用的能力』について、その内容を人に説明はできないが、ある程度知っている」が27.2%でこれに次いでおり、「『基礎的・汎用的能力』について詳しく知っており、その内容を人に説明することができる」2.0%を加えると、73.2%が「基礎的・汎用的能力」を何らかの形で見聞きし、知っていることになる。

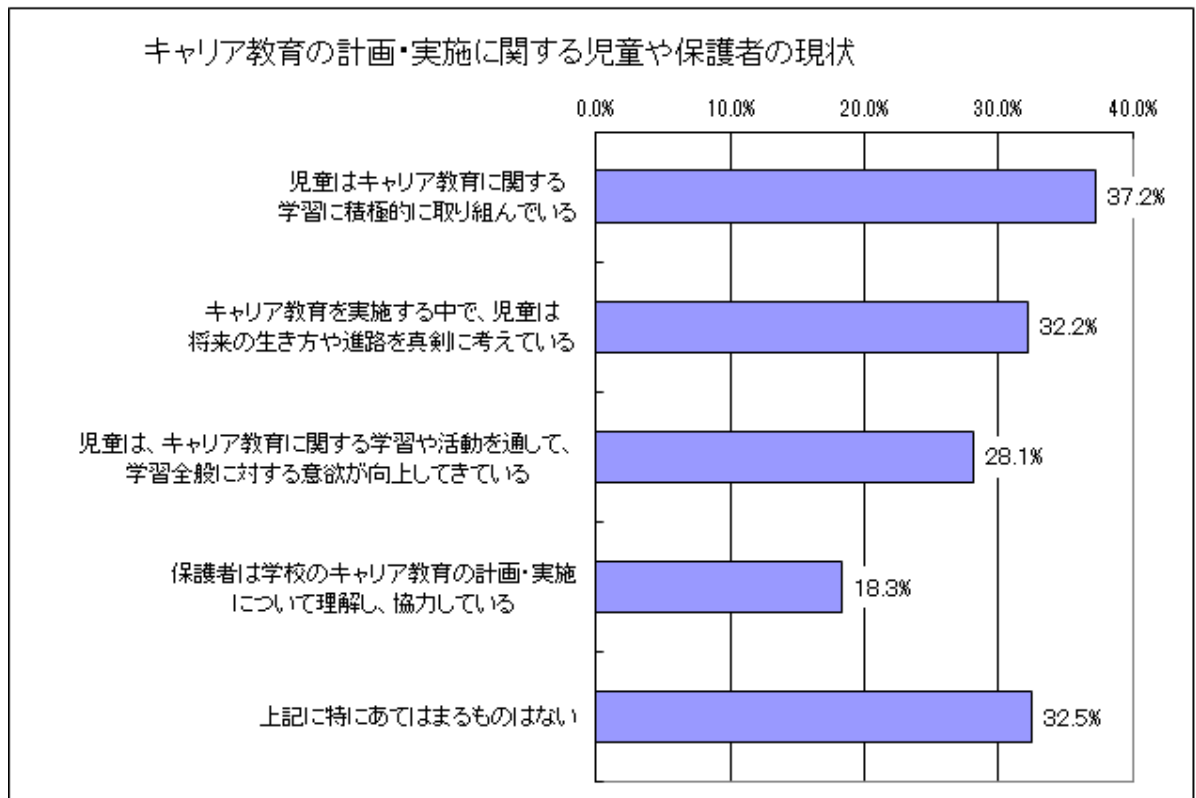
問3 あなたの学級あるいは学年における、キャリア教育の計画・実施の現状についてお尋ねします。あなたが「そのとおりである」と思うものを全て選んでください。



計画の現状を見ると、「学級・学年のキャリア教育の計画は、学校全体のキャリア教育の計画に基づいて作成されたものである」が 43.0%、「学級・学年のキャリア教育の計画は、児童のキャリア発達の課題に即して作成されたものである」が 35.1%であり、約 4 割が全体計画を活用しており、また 4 割弱が児童の発達の現状をふまえて、キャリア教育の計画を作成している。

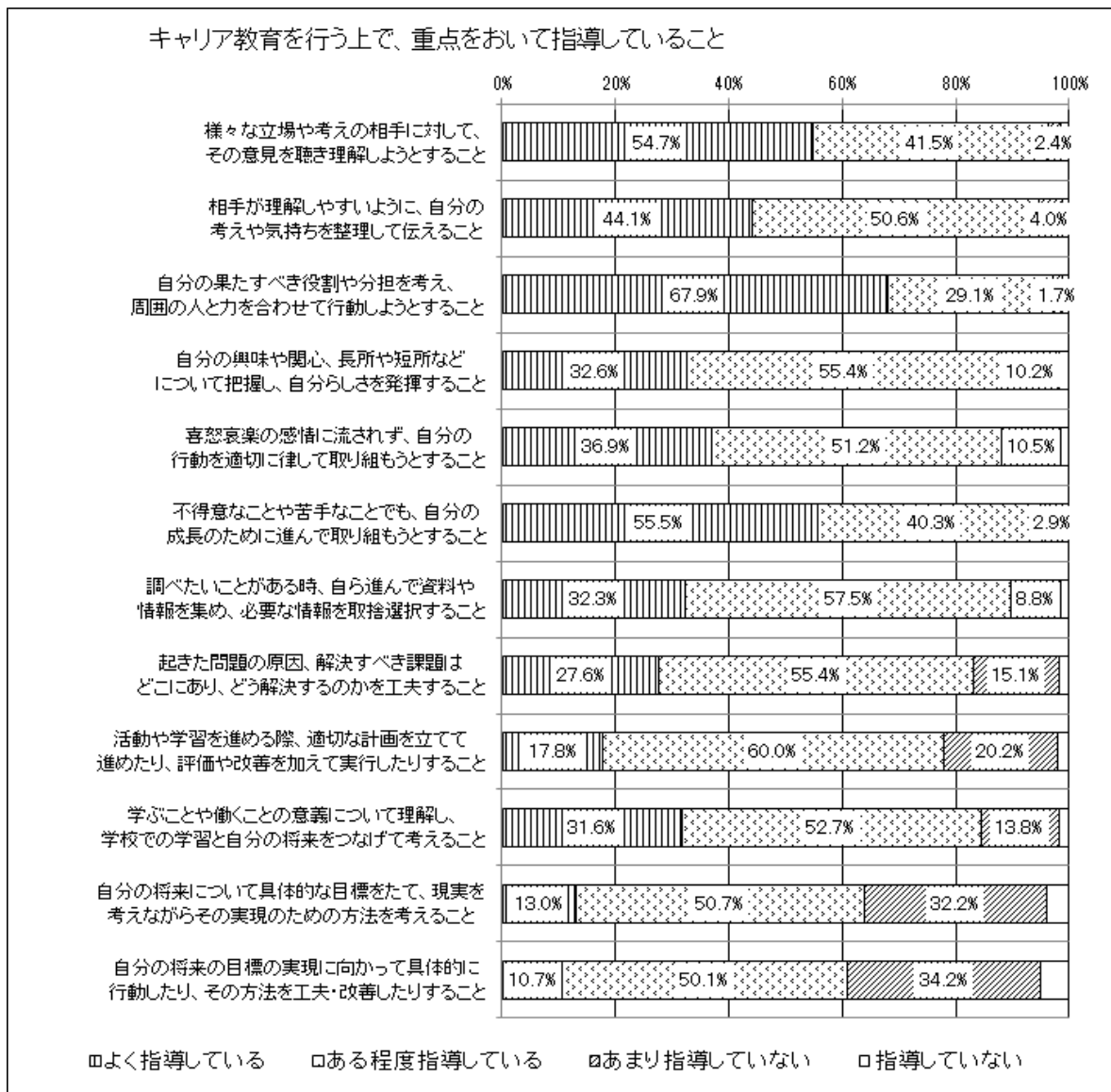
実施については、「キャリア教育に関わる体験的な学習（工場見学・商店街見学・農家見学等を含む職場見学や社会人による講話・実演など）を実施している」62.3%、「キャリア教育に関わる体験的な学習（工場見学・商店街見学・農家見学等を含む職場見学や社会人による講話・実演など）における事前・事後指導を十分に行っている」48.6%が上位を占め、事前・事後指導を含む体験学習が高い割合を示している。また、「社会人や保護者の講話など地域や家庭の教育力の活用に努めている」も 37.7%と 4 割近くを占めており、地域や家庭との連携が進みつつあることがうかがえる。

問 4 あなたの学級あるいは学年における、キャリア教育の計画・実施に関する児童や保護者の現状についてお尋ねします。あなたが「そのとおりである」と思うものを全て選んでください。



「児童はキャリア教育に関する学習に積極的に取り組んでいる」が37.2%で最も高いが、4割弱にとどまっているともいえる。これに「キャリア教育を実施する中で、児童は将来の生き方や進路を真剣に考えている」32.2%、「児童は、キャリア教育に関する学習や活動を通して、学習全般に対する意欲が向上してきている」28.1%が次いでいるが、「上記に特に当てはまるものはない」という回答も32.5%を占めている。一方、割合が最も低いのは、「保護者は学校のキャリア教育の計画・実施について理解し、協力している」18.3%であった。

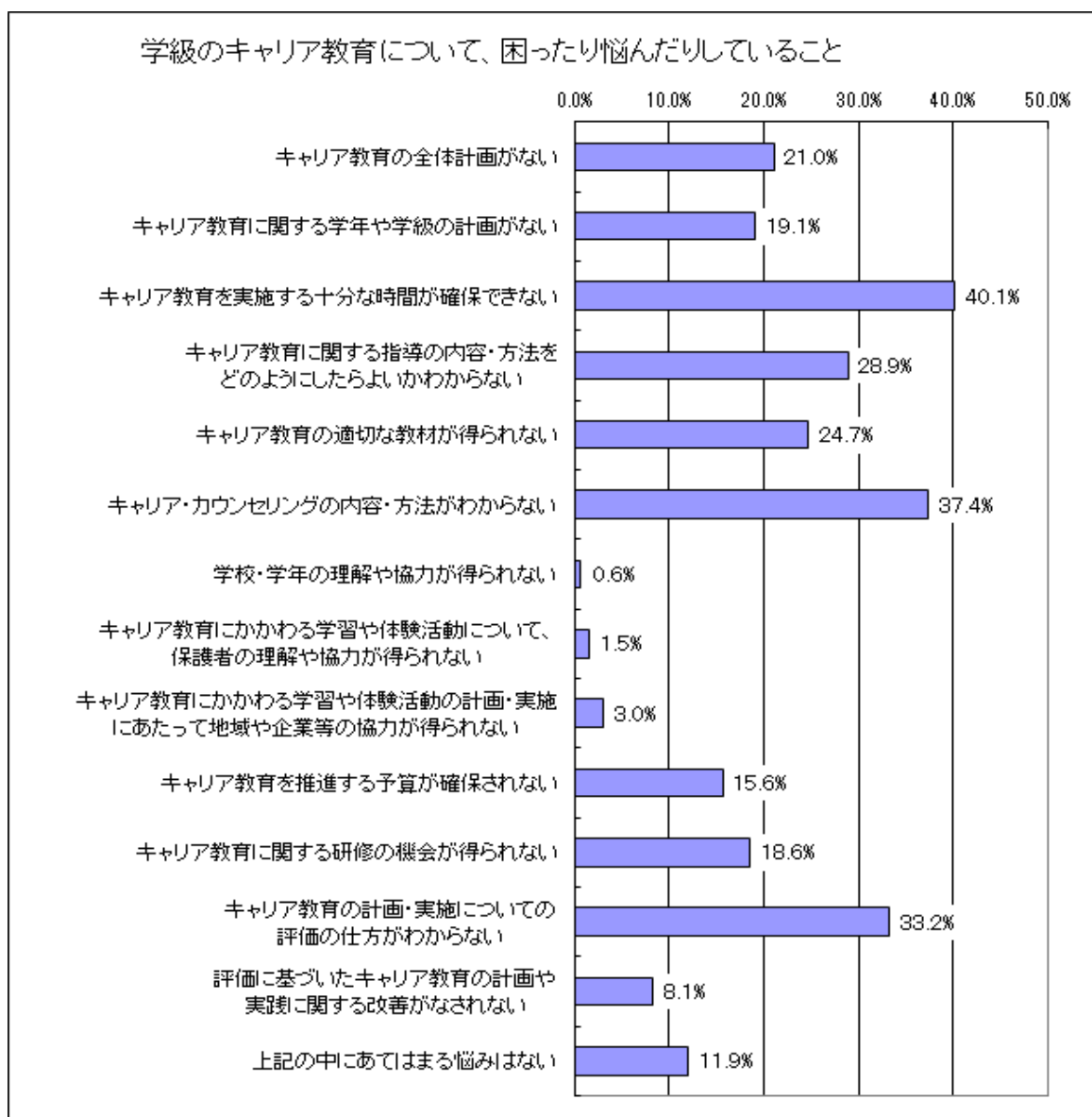
問5 あなたの学級でキャリア教育を行う上で、特にどのようなことに重点を置いて指導していますか。次の(1)～(12)のそれぞれについて、当てはまるものを1～4の中から一つずつ選んでください。



「よく指導している」という回答は、「自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとする」が67.9%で最も高く、「不得意なことや苦手なことでも、自分の成長のために進んで取り組もうとする」55.5%、「様々な立場や考えの相手に対して、その意見を聴き理解しようとする」54.7%がこれに次いでいる。

一方、「活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること」17.8%、「自分の将来について具体的な目標をたて、現実を考えながらその実現のための方法を考えること」13.0%、「自分の将来の目標の実現に向かって具体的に行動したり、その方法を工夫・改善したりすること」10.7%のように、基礎的・汎用的能力のうちキャリアプランニング能力に該当する項目では、重点を置いて指導を行っている割合が低い。

問 6 学級のキャリア教育について、あなた自身が困ったり悩んだりしていることについてお尋ねします。当てはまるものを全て選んでください。



「キャリア教育を実施する十分な時間が確保できない」40.1%、「キャリア・カウンセリングの内容・方法がわからない」37.4%、「キャリア教育の計画・実施についての評価の仕方がわからない」33.2%が上位を占めており、「キャリア教育の全体計画がない」21.0%、「キャリア教育に関する学年や学級の計画がない」19.1%といった個々の学級担任の努力で克服できる項目を上回っている。学校全体での対応や研修の充実などが求められている。

一方、「キャリア教育に関わる学習や体験活動の計画・実施にあたって地域や企業等の協力が得られない」3.0%、「キャリア教育に関わる学習や体験活動について、保護者の理解や協力が得られない」1.5%、「学校・学年の理解や協力が得られない」0.6%といった校内・校外の連携に関する項目では割合が低い。

「とても重要だと思う」という回答は、「キャリア教育に関わる体験的な学習（工場見学・商店街見学・農家見学等を含む職場見学や社会人による講話・実演など）の充実」が 54.9%で最も高く、「キャリア教育に関わる体験的な学習（工場見学・商店街見学・農家見学等を含む職場見学や社会人による講話・実演など）における事前・事後指導の充実」49.0%、「学校のキャリア教育全体計画に基づく学級・学年のキャリア教育の計画の立案」48.3%がこれに次いでいる。

一方、「キャリア教育に関する指導案の作成や教材の工夫」22.8%、「キャリア教育の成果に関する評価」22.7%、「キャリア・カウンセリングの充実」18.4%といった技法面に関する項目では、「とても重要だと思う」という回答の割合が低い。

ただし、「とても重要だと思う」と「ある程度重要だと思う」を合わせると、ほとんどの項目で8割をこえており、最も低い「キャリア・カウンセリングの充実」も78.7%と8割近くを占めている。